

# 集落営農法人等の連携組織の設立と活性化

岩国農林事務所農業部 吉村 勉

## 今回の発表の流れ

---

I 連携組織設立の背景

II 連携組織の設立と活動

III 女性グループの発足と活動

IV 各法人活動の活性化

V 成果と課題、今後の取組

# I 連携組織設立の背景

## I 連携組織設立の背景

### 1 岩国農林管内の集落営農法人

旧市町	法人名	設立年
錦町	(農) グリーンファーム府谷	H21
	(農) むかたお	H22
美和町	(農) 阿賀営農組合	H19
	(農) いきいきファーム美和	H19
	(農) エンタープライシスなごみ	H24
	(農) シャイニング名坪	H24
周東町	(農) たじり	H22
玖珂町	(有) 玖珂グリーンフィールド	H8

## I 連携組織設立の背景

### 1 岩国農林管内の集落営農法人

旧市町	法人名	設立年
錦町	(農) グリーンファーム府谷	H21
	(農) むかたお	H22
美和町	(農) 阿賀営農組合	H19
	(農) いきいきファーム美和	H19
	(農) エンタープライシスなごみ	H24
	(農) シャイニング名坪	H24
周東町	(農) たじり	H22
玖珂町	(有) 玖珂グリーンフィールド	H8

農林事務所のプロジェクト課題として、  
岩国市玖北地域の集落営農法人を対象に課題解決支援を実施

## I 連携組織設立の背景

### 2 各法人へのこれまでの取組

H25年から(農)阿賀営農組合(農)いきいきファーム美和に対し、重点的に担い手の確保・育成等について支援



(農) 阿賀営農組合



(農) いきいきファーム美和

I 連携組織設立の背景

2 各法人へのこれまでの取組

なぜ？

他の法人に比べ、  
現役員の高齢化が著しく、  
担い手確保対策が  
急務であったため！



(農) 阿賀宮農組合



(農) いきいきファーム美和

I 連携組織設立の背景

2 各法人へのこれまでの取組

① (農) 阿賀宮農組合



I 連携組織設立の背景

2 各法人へのこれまでの取組

① (農) 阿賀営農組合

平成26年4月23日 集落点検



平成26年7月11日  
ほ場確認、  
新規就農情報の提供等



I 連携組織設立の背景

2 各法人へのこれまでの取組

① (農) 阿賀営農組合

在住者、後継者へのアンケート調査（平成26年8月）

○ 対象者

組合員20人、後継者世代13人 計33人

○ 調査項目

居住地、農地の管理者、将来の農地管理者、  
法人活動の参加の有無 等

回答数 27 (82%)

I 連携組織設立の背景

2 各法人へのこれまでの取組

① (農) 阿賀営農組合

アンケート調査結果 (一部)

○ 法人作業への参加できる方

8人

内 役員以外で美和町内在住者

4人

I 連携組織設立の背景

2 各法人へのこれまでの取組

① (農) 阿賀営農組合

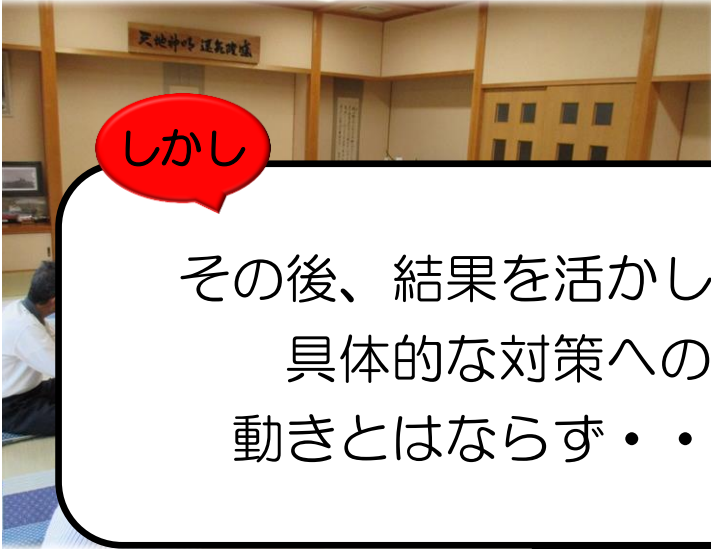


平成26年9月18日 組合員への説明

I 連携組織設立の背景

2 各法人へのこれまでの取組

① (農) 阿賀営農組合



しかし

その後、結果を活かしての  
具体的な対策への  
動きとはならず・・・



平成26年9月18日 組合員への説明

I 連携組織設立の背景

2 各法人へのこれまでの取組

② (農) いきいきファーム美和



I 連携組織設立の背景

2 各法人へのこれまでの取組

② (農) いきいきファーム美和



平成24年度 全国優良経営体表彰  
農林水産省経営局長賞受賞

I 連携組織設立の背景

2 各法人へのこれまでの取組

② (農) いきいきファーム美和



平成26年3月4日 農大視察



I 連携組織設立の背景

2 各法人へのこれまでの取組

② (農) いきいきファーム美和

法人関係者へのアンケート調査の実施（平成26年7月）

○ 対象者

組合員及び家族等 49人

○ 調査項目

居住地、移住の予定、  
法人作業への参加意向、将来の法人の担い手  
法人解散後の農地の管理 等

回答数 46（94%）

I 連携組織設立の背景

2 各法人へのこれまでの取組

② (農) いきいきファーム美和

アンケート調査結果（一部）

○ 役員以外、60歳以下で  
作業の手伝いができる方

3人

○ 今法人作業の手伝いをしていない  
将来は作業を手伝いたい方

8人

I 連携組織設立の背景

2 各法人へのこれまでの取組

② (農) いきいきファーム美和



- 結果と今後の見通しを説明
- 対策の一つとしてBSCへの取組を提案

平成26年8月16日 結果説明会

I 連携組織設立の背景

2 各法人へのこれまでの取組

② (農) いきいきファーム美和



- 地区内外から幅広い世代の参加
- 新たな取り組み提案

平成26年10月11日 BSC 1回目

I 連携組織設立の背景

2 各法人へのこれまでの取組

② (農) いきいきファーム美和

しかし

BSCは2回目以降は休止。  
検討内容を活かしての  
具体的な対策への  
動きとはならず・・・



平成26年10月11日 BSC1回目

I 連携組織設立の背景

2 各法人へのこれまでの取組

なぜ

役員会を何度も開催し、  
意思疎通したはずなのに・・・。  
いつの間にか、押しつけになり、  
目的を共有できていなかったのか。



I 連携組織設立の背景

3 岩国地域協議会の活動

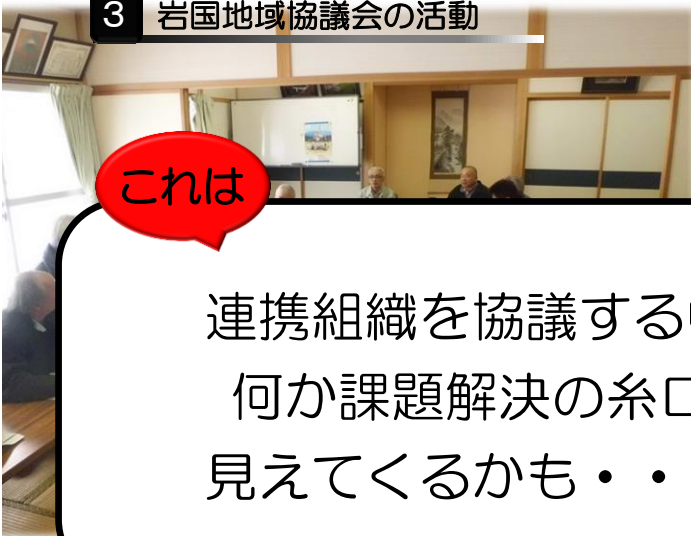


平成26年12月8日 島根県への視察

法人間連携のメリット、  
各役員の意識の重要性  
等について情報収集

I 連携組織設立の背景

3 岩国地域協議会の活動



これは

連携組織を協議する中で  
何か課題解決の糸口が  
見えてくるかも・・・。



## I 連携組織設立の背景

### 3 岩国地域協議会の活動



夜の普及活動で  
検討会開催の  
合意をとる

平成26年12月8日 島根県への視察

## I 連携組織設立の背景

### 3 これまでの取組結果

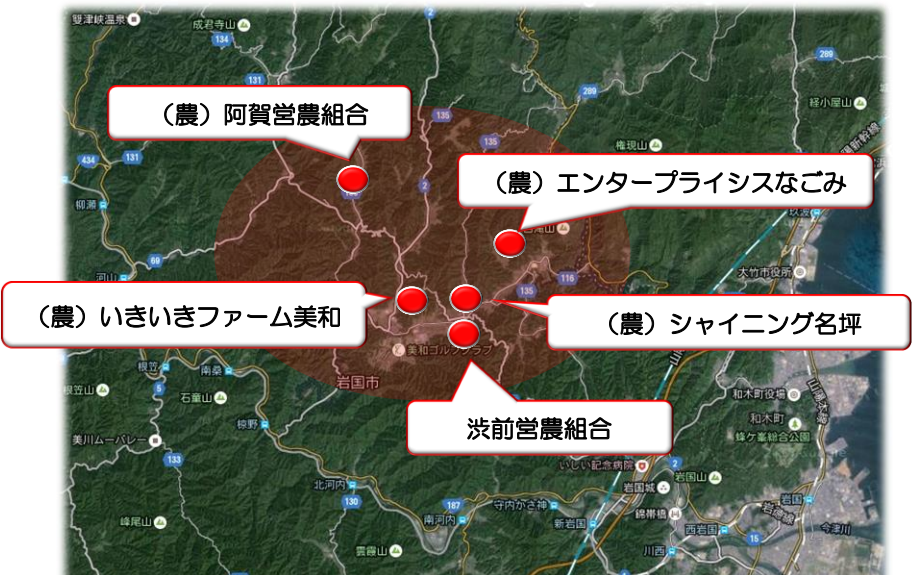
- ・ 法人役員内だけの課題解決の限界
- ・ 法人関係者以外と地域住民との希薄な関係性
- ・ 役員会等を通じての法人と行政の人間関係の構築
- ・ 他法人との連携により相互刺激の中での課題解決の糸口
- ・ 資材の共同購入による経費削減、各種事業の可能性

各法人の課題解決の一つの方法として  
法人連携による取組を提案

## Ⅱ 連携組織の設立と活動

### Ⅱ 連携組織の設立と活動

#### 1 取組内容



## Ⅱ 連携組織の設立と活動

### 1 取組内容

- ・ 検討会開催に向けて関係機関と事前協議
- ・ 県内外の法人間連携事例の紹介
- ・ 各法人の実態（資材代、人材、機械）の調査



平成27年1月19日第1回検討会

## Ⅱ 連携組織の設立と活動

### 1 取組内容

#### 資材代調査

#### 水稻

肥料代	180万円
+ 農薬代	150万円
合計	330万円

資材の統一  
共同購入  
▼  
継続検討

## II 連携組織の設立と活動

### 1 取組内容

#### 人材・機械調査

#### オペレーター

人数 平均年齢

平均年齢

#### 機 械

労力補完  
機械の共同利用  
機械の規程作成

トラクター：5台  
コンバイン：7台  
田植機：3台

## II 連携組織の設立と活動

### 1 取組内容

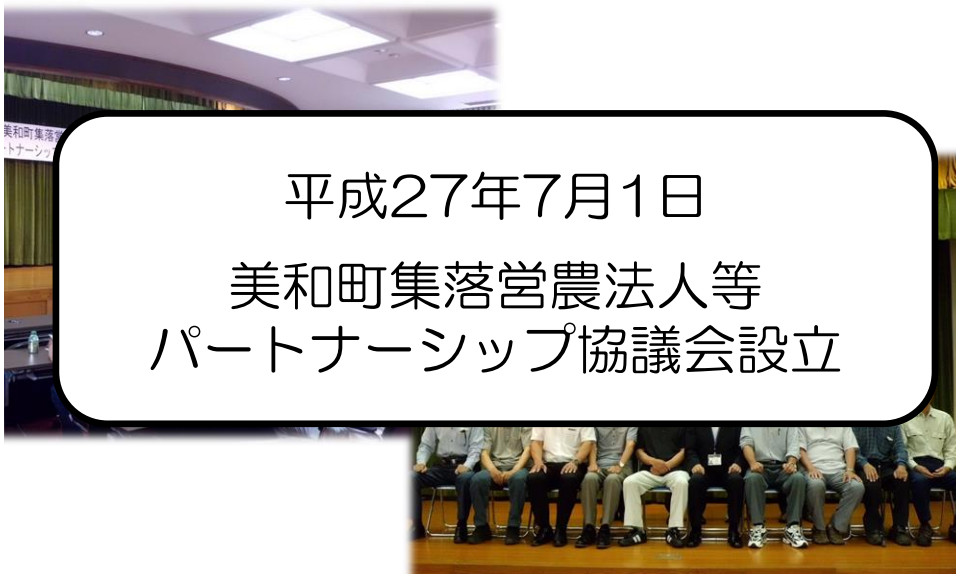
- ・ 水稻技術向上に向けた研修会開催
- ・ 機械の共同利用規程の作成支援
- ・ 市、JAの既存事業を活用した協議会の運営
- ・ 連携組織設立への意識醸成





## II 連携組織の設立と活動

### 2 協議会の設立



## II 連携組織の設立と活動

### 2 協議会の設立

目標

連携事業の強化、将来の法人化

- 機械、人材の相互活用
- 資材の共同購入
- 統一ブランド米の販売
- 直売所や直売コーナーの設置
- 農業体験による交流

年度計画

## II 連携組織の設立と活動

### 2 連携活動

- 水稻ほ場の巡回
- 土壌改良資材散布の共同発注
- H28年産水稻資材の共同購入の検討



平成27年7月29日 水稻現地巡回

## II 連携組織の設立と活動

### 2 連携活動

#### 地域イベントへの参加、統一米試験販売



平成27年11月8日 | フェスタへの参加

## Ⅱ 連携組織の設立と活動

### 3 地域協議会との連携



## Ⅲ 女性グループの発足と活動

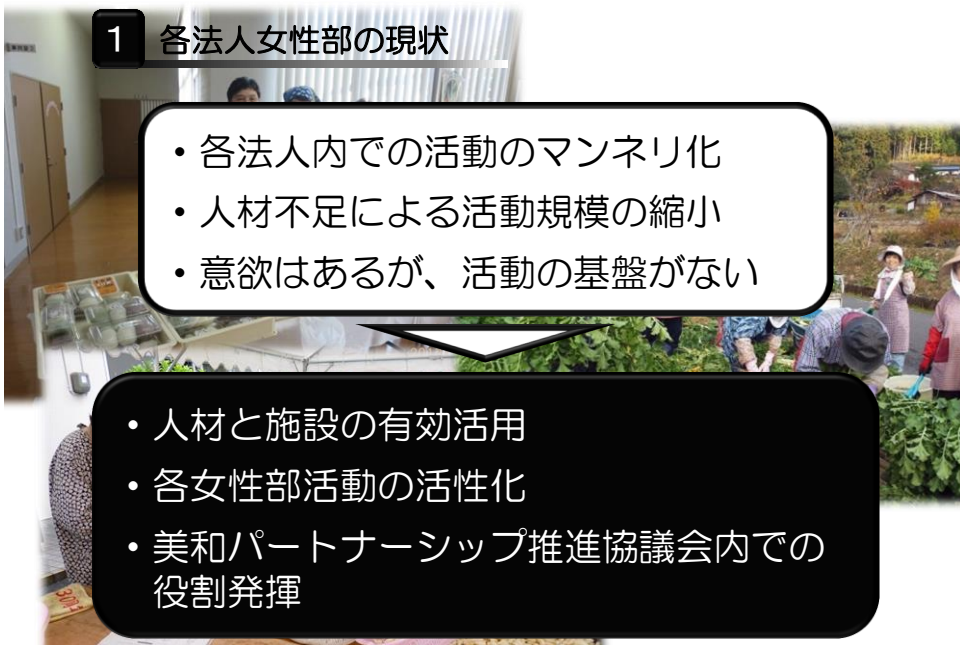
### Ⅲ 女性グループの発足と活動

#### 1 各法人女性部の現状



### Ⅲ 女性グループの発足と活動

#### 1 各法人女性部の現状



### Ⅲ 女性グループの発足と活動

#### 2 連携活動の取組

##### 意見交換会

①自己紹介・組織紹介、②意見交換

仲間がいることは  
とてもうれしい

直売所ができると  
いいねえ

新しいつながり  
での活動が楽しみ

美和のお菓子を友達に送  
るとすごく喜ばれるのよ



### Ⅲ 女性グループの発足と活動

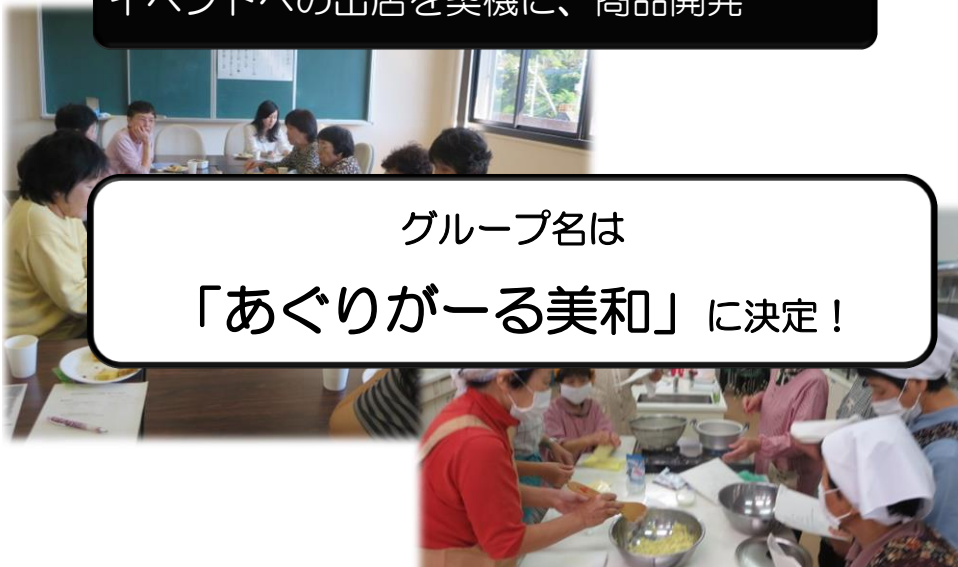
#### 2 連携活動の取組

##### 各地区への相互訪問

- ①お互いの活動背景、活動を知る
- ②親交を深める



イベントへの出店を契機に、商品開発



グループ名は  
「あぐりがーる美和」に決定！

「フェスタへの出店



- ・四種類のお菓子の販売、アンケート実施
- ・お客さんからは激励の言葉がたくさん
- ・イベントを機に、メンバーのつながりが強くなり、今後の活動へ弾み。



## IV 各法人活動の活性化

### IV 各法人活動の活性化

#### 1 (農) 阿賀営農組合

- 若手の役員への起用
- 飼料米拡大による経営改善



#### IV 各法人活動の活性化

##### 2 (農) いきいきファーム美和

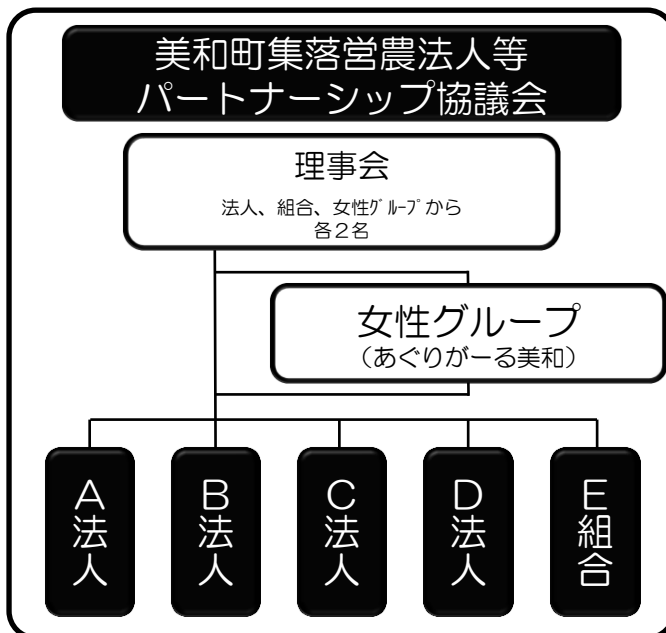
- 農大生等研修受入れに向けたチラシの作成
- 地域内の若手との懇談会の開催
- 法人事務所設置の検討



#### V 成果と課題、今後の取組



V 成果と課題、今後の取組



V 成果と課題、今後の取組

1 連携協議会

成果

協議会の設立と共同活動の実施

課題

法人関係者による主体的な活動、連携

今後

- 機械や人材の相互活用
- グループ内死蔵に基づく、お米の商品開発と販売
- 消費者との交流

V 成果と課題、今後の取組

2 女性グループ

成果

- ・グループの発足と各種活動での連帯意識の醸成
- ・連携協議会理事会への参画

課題

活動方向の明確化、自主的な組織運営

今後

- ・商品開発に向けた消費者調査、販売に向けた協議
- ・女性の視点を生かした意見提言

V 成果と課題、今後の取組

3 各法人

成果

担い手の育成・確保に向けた取組拡大

課題

組合員との課題共有、経営安定と担い手の育成

今後

- ・早期の若手役員の起用
- ・飼料米や酒米栽培等事業内容の見直し
- ・法人関係者や集落内住民との意思疎通に向けて、懇親会や交流活動の開催

## 最後に・・・

- あの手この手で提案し続ける
- 法人と行政との人間関係
- 関係機関との人間関係



ご清聴ありがとうございました。